

報道関係者各位  
プレスリリース

一般財団法人社会変革推進財団

「2024年度インパクト投資に関する消費者意識調査」を発表  
インパクト投資の認知度は過去最高値7.7%  
日本初の定量調査で、インパクト投資の認知度とエシカル意識の実態を解明

一般財団法人社会変革推進財団(所在地:東京都港区、理事長:大野修一、以下「SIIF」)は、国際的なインパクト投資推進機関であるGSG Impactの日本支部であるGSG Impact JAPANの事務局として、「2024年度インパクト投資に関する消費者意識調査」を実施し、結果を発表しました。本調査は、日本の一般消費者を対象としたインパクト投資意識調査で、6回目の実施となります。本年は2年ぶりの定量調査を行い、新たに「エシカル消費意識」の設問を加えることで、社会課題解決への消費者意識とインパクト投資関心度を多面的に分析しました。

【 主な調査結果 】

- 投資経験者は51.2%:  
本調査を開始した2019年以降、初めて投資経験者が過半数を上回った。  
推移:2024年51.2% ← 2022年46.0%←2021年47.6%←2020年45.2%←2019年44.8%)
- インパクト投資の認知度は過去最高値の7.7%を記録:  
20代・30代の投資経験者の認知度が約3割と高い。過去の調査結果と同様の傾向  
推移:2024年7.7%% ←2022年7.1%←2021年6.6%←2020年6.1%←2019年6.8%
- 実施への関心度は16.4%:  
最低値を記録しつつも、過去の調査結果と同様の傾向の20代、30代の投資経験者の関心度が、約3割。  
推移:2024年16.4% ←2022年17.7%←2021年17.2%←2020年19.1%←2019年20.7%
- インパクト投資に関心があると回答した人の関心度の高い社会課題テーマ:  
再生可能エネルギー、先進技術を応用して社会課題に取り組む企業、環境保全、持続可能な農業、質の高い医療・介護サービス

- 投資経験のある層ほど、環境や倫理を重視する消費行動を取る傾向が顕著。  
エシカル消費意識が高い人はインパクト投資にも高い関心を示す。  
将来の有望セグメント: 若年層および高齢層

## 【 調査概要 】



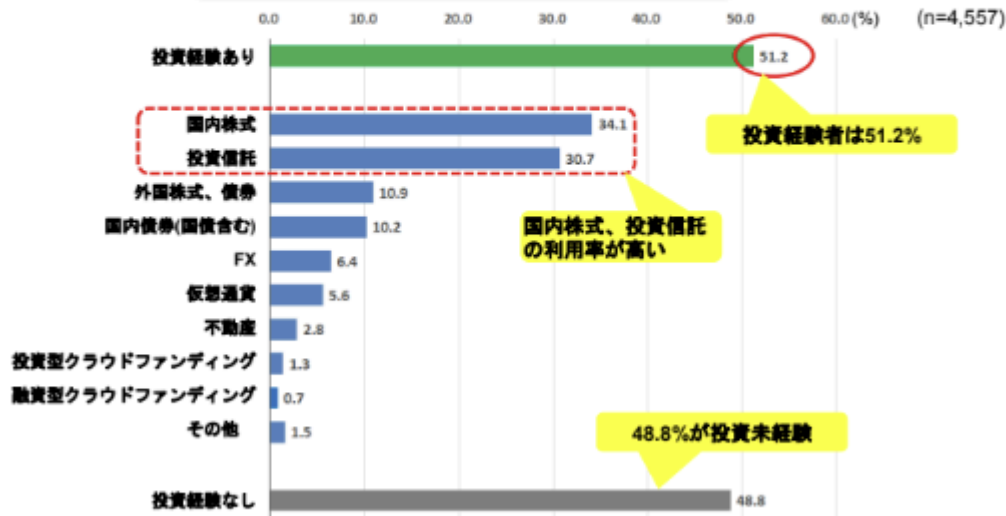
- 調査期間: 2024年8月20日~21日
- 調査形態: インターネット調査
- 対象: 20歳から79歳までの全国の一般消費者
- 回答者数: 4,557人 (昨年4,414人)
- 抽出方法: 全国の性別人口比と世代人口比に近似するよう層化二段無作為抽出
- 実査委託先: 株式会社マクロミル
- 分析実施: 一般財団法人社会変革推進財団

[https://www.siif.or.jp/wp-content/uploads/2025/01/2024\\_impact\\_chousahoukoku.pdf](https://www.siif.or.jp/wp-content/uploads/2025/01/2024_impact_chousahoukoku.pdf)

## 【 調査結果 】一部抜粋

- 消費者の投資経験率は51.2%と、本調査で初めて過半数となった。
- アセットクラスでは国内株式と投資信託の経験率が高い。

Q あなたは今までどのような投資をした経験がありますか。当てはまるものをいくつでも選んでください。

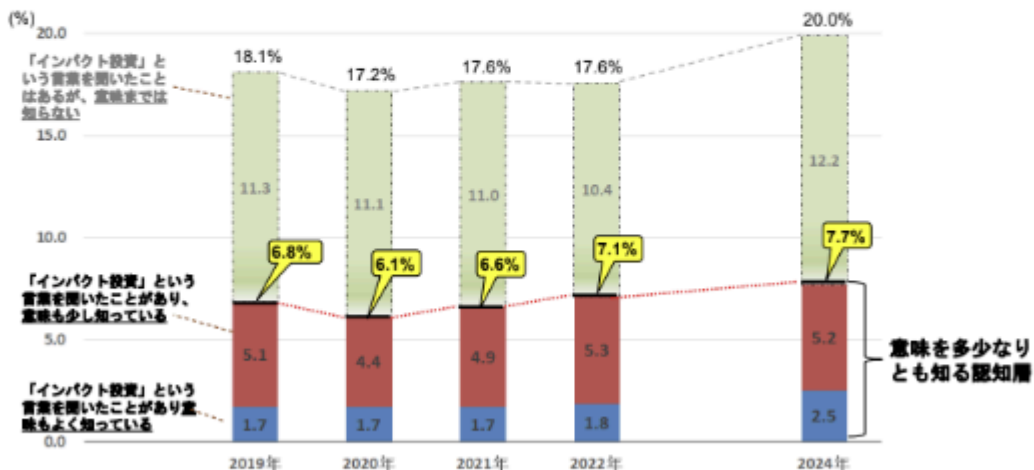


Copyright© 2025 SIIF All Rights Reserved.

インパクト投資の認知度と経年比較

- 本調査を開始して以来、インパクト投資の意味を多少なりとも知る認知層は7.7%と最高となった。
- 「言葉を聞いたことはあるが、意味までは知らない」層まで含めた広義の認知層は初めて20%に達した。
- ゆっくりではあるが、インパクト投資の認知のすそ野は確実に広がっている。

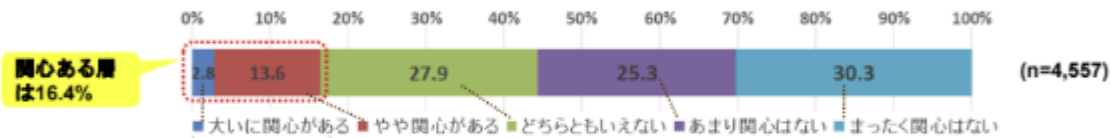
Q 経済的なりターン（利益）を生み出すと同時に、社会課題解決も追求する投資を「インパクト投資」と呼びます。あなたは「インパクト投資」という言葉を聞いたことがありますか。最も当てはまるもの一つを選んでください。



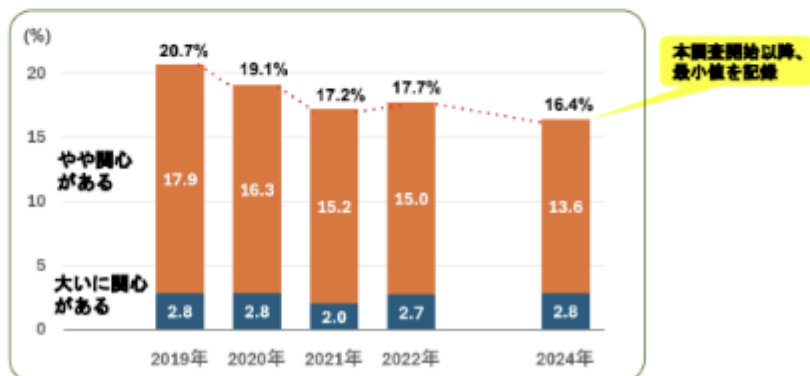
Copyright© 2025 SIIF All Rights Reserved.

- インパクト投資を行うことに関心ある人の割合は**16.4%**と、調査開始以来最小値を記録。
- 近年の物価上昇による実質賃金下落により、必需性の低いインパクト投資の意欲が低下したのではないかと考えられる。

Q あなたは、「インパクト投資」を行ってみたいと思いませんか。あなたのお考えに最も近いものをご一つ選んでください。

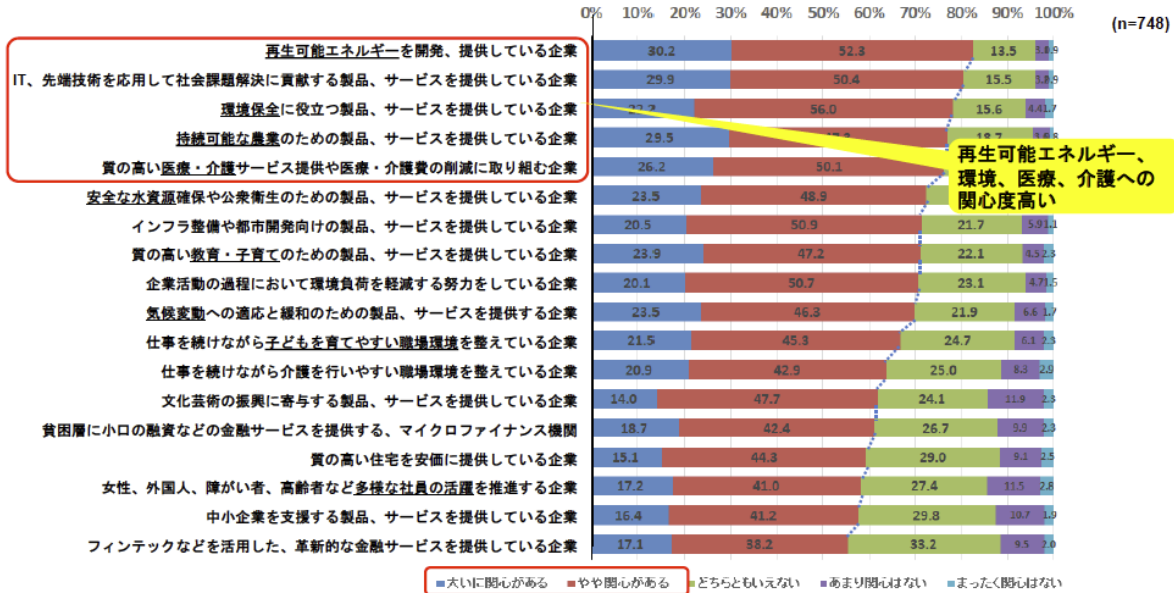


インパクト投資  
関心度の経年比較



- インパクト投資を行うことに関心ある層に、社会課題解決のためどのような企業へ投資したいかを尋ねたところ、再生可能エネルギー、環境、医療、介護などSDGs領域を推進する企業への関心度が高い。

Q 社会課題（子どもの貧困、介護問題、引きこもり問題など）の解決に取り組む企業に投資することは、それらの企業への支援につながります。あなたはその企業の株式や投資信託を購入したり、クラウドファンディングで融資や投資をしてみようと思いませんか。設問ごとにあなたの考えに最も近いものを一つ選んでください。



再生可能エネルギー、  
環境、医療、介護への  
関心度高い

- 消費財の購入と投資は互いに独立した行動であるが、実際には株式など投資経験ある人の方がエシカル消費意識が高い。
- 男女でパターンは異なる。エシカル消費意識が高いのは、①投資経験ある20代と70代の男性と、②投資経験ある60代以上の女性。



- エシカル消費意識が高いクラスターAは、インパクト投資を行うことへの関心度が4割を超えており、エシカル消費意識の中間層であるクラスターBと比べても4倍の高さとなっている。
- エシカル意識の高い消費者が接する媒体にインパクト投資を取り上げてもらうことで、関心を惹起することが容易になると考えられる。

Q あなたは、「インパクト投資」を行ってみたいと思いますか。あなたのお考えに最も近いもの一つを選んでください。

